

辛  
亥  
年  
七  
月  
廿  
四  
日

卷之三

雨天好日 三月二十七日 出発前夜

身体を語さざる事、  
煙草をたべたく頃音、  
耳はわる所、  
目を閉じていてもみえる光、  
追いかける雨音、

卷之三

「アーリー、おまえの仕事は、おまえの仕事だ。おまえがやるんだから、おまえが責任を負うんだ。アーリーが責任を負うわけないだろ？」

いやいや、本当にいいの。喜ば  
始まりでないし。  
喜びでないなにやたら。  
喜びでないなにやたら。  
喜びでないなにやたら。  
喜びでないなにやたら。  
喜びでないなにやたら。

んな感じがするのか知らない。

おとずれるはずだった鳥、  
期限のされたが、  
ぼくを鳥へ返るはずだった枕更が解説する上を  
四に、ぼくの心も出発していた。

時に、ぼくの心も出発していく。

A black and white photograph showing a person from behind, standing in a dark room. They are facing a wall covered in vertical Japanese calligraphy. The scene is dimly lit, with the main light source appearing to be from the camera's flash or a small lamp held by the person. The entire photograph is enclosed within a wide white border.

わたくし

卷之三

十一年のことをやめ  
出来事などあつたな  
すべて

リモアの車を駐め  
車に乗りこま  
る

11月21日



T ON



TT ON

五時十九分  
雨が少々

二三三



SB ON

小草の葉と  
木の葉



ST ON



No. 18



No. 18



No. 32

高さのところ  
さす地で

一面に  
草地へえ  
玉葱の  
面に  
野の花  
野の花



No. 30



No. 32

高さのところ  
さす地で



No. 32

高さのところ  
さす地で

ごもあれ、かつて歸れた先を、再現しながら、  
オーラ、おぼろがそれをみて、どう感じたかを  
乗じたながら、奥のお怒しを織り合わせる努力  
をつづけた。

それは、ふさい夢を夢みながら、どこから  
身に付くもの、精神にみるふるなもの、

身に付くもの、精神にみるふるなもの、

彼 11月21日  
12月ほどのいうており  
11月の  
11月の

ジム 11月21日  
11月の